

岩手町で「原木シイタケ栽培技術研修（ハウス活用等）」を開催しました

1 はじめに

普及班では、原木シイタケの生産振興を図るため、現地機関等からの要望により、林業普及指導員や新規生産者等を対象とした栽培技術研修を開催しています。

今回は10月17日に岩手町で、県内の種菌メーカーに講師を依頼して、岩手町椎茸生産組合の「ホダ場現地研修会」との併催により、今年植菌した原木のホダ化調査等の技術研修会を開催したので、その内容を紹介します。

2 研修の内容

(1) 春に植菌した原木のホダ化調査

町内6か所のホダ場で、原木を割裂して菌糸の伸長によるホダ化を確認しました。

ホダ化の判別のポイントは、柁目面や形成層で菌糸の伸長が見られる、木口面の年輪がぼやける、木口面の心材の色が辺材の色に近似してくる等です。

なお、ビニールテープ等で割裂部分を密着させて補修することで、菌糸同士が結合し、ホダ木として活用することができます。



割裂による菌糸伸長の確認



ビニールテープによる補修

(2) 原木に発生した害菌とその対処

令和6年は、冬季の気温が例年より上昇し、県内各地のホダ場でダイダイタケやシトネタケ等の害菌が多く確認されています。

害菌は中温～高温で高温を好むため、気温が上昇する4月以降は、仮伏せの被覆シートを捲って温度を調整する、本伏せ作業の前倒しを検討する等の対処が必要です。



ダイダイタケ



シトネタケ

(3) 早期植菌の効果とハウス活用

普及班から、早期植菌によるホダ化の促進とシイタケ収量増加^{※1}について説明するとともに、早期植菌後のハウスを利用した伏せ込み事例^{※2}を紹介しました。

講師から、ハウス内の伏せ込みでは、菌糸伸長が促進され温度が上昇すること、さらに5月までハウス内で伏せ込むと高温障害の危険があることから、温度管理には細心の注意が必要との補足がありました。

3 今後の取組

普及班では、県内のシイタケ生産者の確保のため、今後も栽培技術研修会の継続的な開催により、新規生産者や林業普及指導員等の資質向上に取り組んでいきます。

※1 令和6年4月発行 岩手の林業「原木シイタケ栽培の早期植菌がホダ化と子実体発生に及ぼす効果」

※2 平成23年3月発行 岩手県林業技術センター 「シイタケ原木栽培の伏せ込みにおけるハウス利用事例集」